

『一人の笑顔のために』

夏休み 8月1日(土)～8月23日(日)

例年より短くなりましたが、夏休みが始まります。まずは健康第一で、有意義な一日一日を過ごしてほしいと願っています。**新型コロナウイルス感染予防の取組も、継続してください。**

また、日頃できない学びにも挑戦してほしいと考えています。この時期には、戦争や平和について考えるためのテレビ番組等も放送されます。是非、命の大切さについて考える機会にしてほしいと思います。

<今後の行事予定>

8/18(火)：生徒登校日

8/24(月)：前期後半スタート
全校集会、整容検査

8/25(火)～8/27(木)
：前期期末テスト

8/30(日)：PTA 美化作業(保護者のみ)

9/13(日)：小中合同運動会

戦争の傷跡

今年は戦後75年目。今から15年前の戦後50年目にあたる年、当時勤めていた学校で地域の方から戦争体験談を募集したことがあります。

一通の手紙が寄せられました。その手紙の中の「中国残留孤児の方々は幸せなほうだ・・・」という一文に私は衝撃を受けました。戦争の結果、祖国に帰れず中国に取り残された可愛そうな方々であるという私のそれまでの認識がくつがえされたように思えたからです。その方は、これまで家族にも話したことがないという体験談を次のように手紙に綴ってくださっていました。

「ソ連軍の侵攻により、線路伝いに逃げる途中、力尽きて母親の名前を呼びながら、倒れる者もいた。そのような人を助けたいが、自分が生きるためには見捨てていくしかなかった。そんな厳しい状況の中、生き残ることができたのが中国残留孤児の方々である・・・」

※中国残留孤児とは、1945年(昭和20)8月、ソ連の対日参戦とそれに続く日本の敗戦で混乱を極めた中国東北部(旧満州)において、家族にはぐれたり置き去りにされたりして中国人に育てられてきた日本人の子どもをいい、その数は、8,000人とも1万人を超えるとも言われています。

ある養父母の話です。(NHKスペシャル「大地の子を育てて」より)

一人の中国人の女性が路地で着物の帯にくるまれた生れたばかりの赤ん坊を見つけた。女性はその赤ん坊を連れ帰り、夫婦で話し合い、自分たちの子どもとして育てることを決めた。しかしその3日後、夫は海岸で日本兵に殺されたのである。親戚や友人は皆、「そんな日本人の子どもを育てるのはやめろ。」と言ったが、その女性は「子どもには罪はない。」と、その子を自分の子どもとして育てたのである。

ソ連軍の侵入と同時に日本軍に遺棄され、一切の保護を失った人々は、虐殺・暴行・飢餓・病気の地獄をさまよわなければならなかったのです。そのような状況の中で、幼子を抱えた母親が想像を絶する悲惨さのなかで、生きるために自らの子を手放さざるを得なかった例は数限りなくあったと考えられています。

残留孤児とは、こうした状況の中で幸いに生き残り、善意の中国人の手で育てられてきた人たちのことです。

(→裏面につづく)



